

私の住みたい家 ~自閉症の子の家~

設計趣旨

依頼主は父、母、息子の三人家族で、現在アパートで暮らしています。

息子は自閉症という発達障害を持ち、人との関わりが苦手です。また、彼の祖母は別の場所で一人暮らしをされており、祖父が一年ほど前に他界してからずっと元気がありませんでした。祖母の高齢化と孤独を心配した父は自分の息子と元気のない祖母に配慮した家族同士の距離感を感じられる家を新築したいと考えました。

現在、日本には多くの高齢者が存在し、家づくりにもバリアフリーが多く求められています。バリアフリーとはすべての人が過ごしやすいよう障害をなくしていく施策のことで、障がい者なども含まれます。バリアフリーの例としては、段差をなくしスロープを設ける、トイレを広くする、ドアをスライド式にするといったものがあります。しかし、障がい者の中には体は健康でも精神的な面で普通でない子もいます。自閉症もその一つです。そのような子に寄り添った家とは一体どのようなものになるのでしょうか。私は人や家族との距離や雰囲気を感じられる家がそのような子たちに寄り添えた家だと考えました。今回はそのような家を私なりに考え、提案したいと思います。

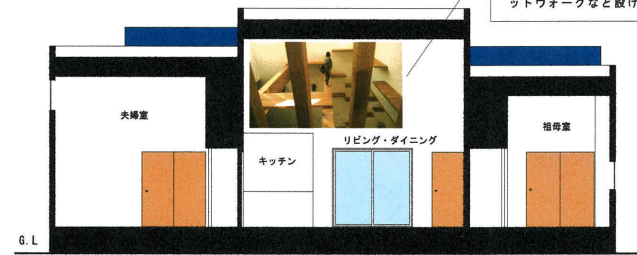
家族同士の距離感を感じられる上に長い階段を設けなくてもいいように平屋建てに。



X-X' 断面図 1/100

床の高さを変え、親と子供の視線が合うようにする。

自閉症の緩和の効果があるという猫を飼いたいという要望から、高いところを好む猫のために大きな空間を生み、高低差を作る（キャットウォークなど設ける）



Y-Y' 断面図 1/100

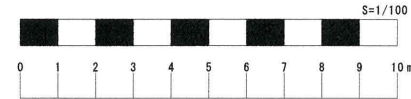
家族の過ごす空間と個々の部屋を離しすぎず、近い距離を感じられる部屋割りに

扉はスライド式を多めに（スライド式は開ける力が少なくて済む。）

日の当たる遊べる庭に対し、北側には少し休める場所を（部屋や空間に役割を持たせることで自閉症の子が過ごしやすい空間に）

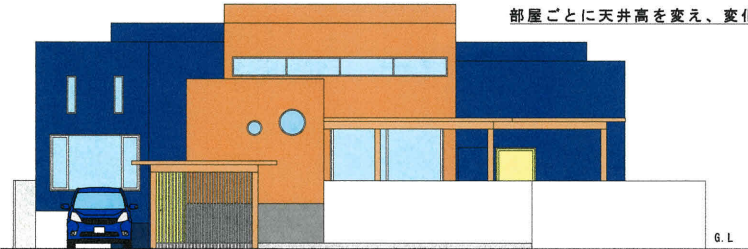


配置図兼1階平面図 1/100



敷地面積	319.50㎡
1階床面積	147.09㎡
建築面積	175.39㎡
建ぺい率	54.89%
容積率	46.04%

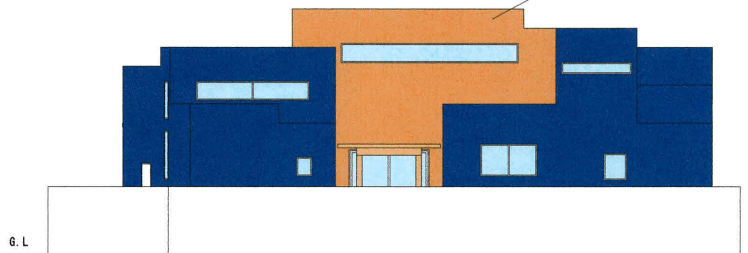
部屋ごとに天井高を変え、変化のあるデザインに。



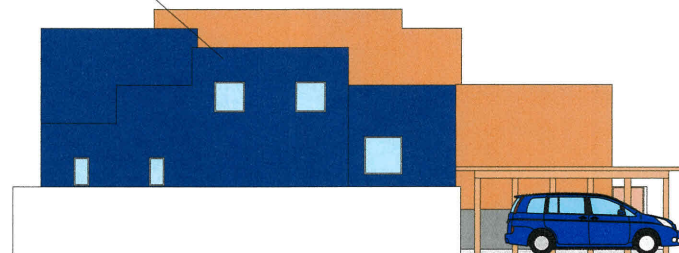
南立面図 1/100

東立面図 1/100

建物の高さの違いを利用し、側窓を多く設け、日の光を入れる。



北立面図 1/100



西立面図 1/100

模型写真

